

# 世界の中の食品安全委員会

食品安全委員会の活動は、国内のみにとどまるものではありません。国際機関や諸外国の政府機関等との連携、最新の科学的知見やリスクコミュニケーションに関する情報の収集、世界に向けた委員会活動の積極的な情報発信などにより、国際的な調和を図っています。

## 欧州食品安全機関 (EFSA) との連携強化

### EFSAとは

EFSA (European Food Safety Authority) は、27加盟国からなる欧州連合 (EU) において、リスク管理機関である欧州委員会 (EC) とは独立した専門のリスク評価機関として、2002年1月に設立されました (所在地: イタリア・パルマ市)。

リスク評価を行うため、14名の委員で構成される科学委員会と、次の9つの科学パネル (専門部会) が設置されています。

- ①食品添加物・香料等、②飼料添加物等、③農薬・残留農薬、④植物衛生、⑤遺伝子組換え、⑥栄養補助食品・栄養・アレルギー、⑦生物学的ハザード、⑧汚染物質、⑨動物衛生及び動物福祉。

### EFSAとの協力の推進

食品安全委員会は、食品のリスク評価を行う専門の機関として役割や組織が類似しているEFSAと、今後、次のような協力を進めることを検討しています。

- ①リスク評価に関する情報交換
  - ・農薬、食品添加物、遺伝子組換え食品、BSEなどに関する評価結果、根拠となった科学的データなどの可能な範囲内での相互提供
  - ・リスク評価手法やリスク評価にあたっての個別の課題についての意見交換
- ②リスクコミュニケーションに関する情報交換
  - ・消費者のリスク認知に関する調査における情報交換、EFSAのリスクコミュニケーションに関するワークショップへの日本側専門家の参加など

### 定期会合の開催

今後の協力の進め方などの協議や、科学的分野についての専門家による意見交換を行うため、両機関で定期会合を開催することを検討しています。第一回目の会合は、本年秋頃に東京で開催する予定です。



内閣府食品安全委員会事務局長 (中央右) によるEFSA長官 (中央左) 訪問 (平成19年1月8・9日)

## リスクコミュニケーションに関する国際的な連携

食品安全委員会は、平成17年、18年に引き続き、平成19年1月29日 (月) ~ 31日 (水) の3日間、国際ワークショップを開催しました。

今年は、カナダ、オランダからリスクコミュニケーションの専門家を招くとともに、各国の在日大使館や関係省庁からも参加いただき、公開で開催しました。3回目となる今回は、これまでの成果を踏まえ、メディアアリレーション (マスメディアとのコミュニケーション)

を中心として、各国のリスクコミュニケーションの取組についてのプレゼンテーションや、日本の民間企業やマスメディアの専門家からの報告に基づき、効果的な情報提供についての総合的な討論を行いました。食品安全委員会では、国際ワークショップの成果を今後のリスクコミュニケーションの推進に活かすとともに、リスクコミュニケーションに関する国際的な連携をさらに強化していきたいと考えています。



カナダ食品検査庁サンドラ・ラヴィーン氏 (右) とトゥエンテ大学 (オランダ) イレーネ・E・ファン・ヘーステヤコブ氏 (左)

## 海外への情報発信

食品安全委員会は、リスク評価の結果 (評価書) や評価指針などの英訳を進め、これを英語版のホームページに掲載することを通して、海外へ情報発信を行っています。

英語版ホームページでは、すでにBSE、農薬、添加物を中心としたリスク評価の

情報を掲載していますが、今後は、農薬に関する評価書などの英訳に積極的に取り組んでいく予定です。実際に、委員会が行った3つの農薬の評価書が、オーストラリアにおけるADIの設定の際の参考資料として活用されています。

## 国際会議への参加

食品安全委員会の活動の国際的な調和を図るため、OECD (経済協力開発機構)、WHO (世界保健機関)、コーデックス委員会などの海外で開催される会合・ワークショップに、食品安全委員会からも専門家を派遣し、国際的な動向に関する最新の情報収集に努めています。